

沖縄 ICT フォーラム 2009

～インターネットを取り巻く最新動向～

今年で3回目を迎えた沖縄 ICT フォーラムですが、テーマはインターネットを取り巻く最新動向です。電気通信事業者にとって常に気にしなければならない、通信の秘密を取り上げました。違法有害情報や個人情報関係等、必ず問題にあがり議論になるところです。そのため個人情報保護法の第一人者である、堀部政男先生に「個人情報保護と通信の秘密について」として講演頂き、帯域制御や安心ネットづくりの取り組みなどもセッションに加えました。また、一昨年にひめゆり平和祈念資料館の方（ひめゆり隊にいた方）にお話をいただきましたが、今回は、違った目で見えた沖縄戦のお話ということで、沖縄国際大学教授の石原昌家先生にご講演いただきました。会場になった場所も照屋林賢率いるりんけんバンドの館で、今までにはないライブハウスでの開催。ライブハウスは夜開催ですから、空き時間をお借りしました。内装は、赤と黒で竜宮城をイメージしているらしいです。照明はなかなかで、2階からはステージを見下ろす感じ、こぢんまりとなかなか良かったです。

今回、沖縄に会社を持つ株式会社レキサス様にご協力をいただき、会場、設備等の手配をしていただき、当日もいろいろとお世話になりました。この場を借りましてお礼申し上げます。

日にち：2009年10月9日（金）～10日（土）

場所：カラハーイ

〒904-0115 沖縄県中頭郡北谷町美浜 8-11

主催：社団法人日本インターネットプロバイダー協会

後援：沖縄県

協賛：株式会社レキサス

詳細のタイムスケジュールは末尾をご覧ください。

【10月8日（木）】番外編

以前2月に沖縄で地域ISPの集いを開催したとき、当日入りの事務局は、飛行機のエンジン部分が故障して、開場に間に合わなかったことがあったのです。その時も少し余裕を持って出発したのだが、結局間に合わず、「到着している面々で先に進めていてくれれば」との思いとは裏腹に待っていてくれたとは。1時間半、いや2時間くらい遅れて参加者の皆さんを待たせてしまったのです。その教訓を生かし？それ以来、沖縄に限らず遠方（特に飛行機を使うところ）は前日入りをすることにしています。今回もその余裕の予定にしたものの「なんと台風？」朝の山手線は止まっているし、やっと渋谷の事務所に着いたら、いつも使っている地元からの通勤電車が今度止まってしまったと、間一髪。さて羽田空港へどうやって行くの？こうなったら羽田空港にまず行かなくては！動き出した山手線に乗

り品川から京急へと思ったよりスムーズに。しかしやはり飛行機は動いていない。どんどん時は過ぎて、チケットももらえない（ツアーにしたから手続きが・・・）。羽田空港で待つこと 4 時間半、やっと飛行機に乗れたのでした。当日で無くて本当によかった。現地でも迎えてくれたのは、居酒屋でウーロン茶と打合せでした。

【10月9日（金）】

台風も去り、当日入りの方々もすこし飛行機に影響があったようですが、予定通り 14:00～渡辺会長の開会挨拶からはじまりました。渡辺会長が幼少の頃、ご自分でだされた郵便物を持参され、検閲をした後の封筒を見せてくださいました。

さて、最初のセッションは、「沖縄県の情報通信政策と IT 津梁パークについて」として後援の沖縄県庁の方にお話をさせていただきました。なぜ、沖縄県に IT 企業が進出しているのか。「豊富な労働力、賃金補助（沖縄若年者雇用促進助成金）、各種人材育成、研修支援等」「情報産業ハイウェイ（国内～沖縄（広域イーサネット網）→沖縄～香港（アジアを結ぶ GIX））」「コールセンターの成功事例（各種コールセンターが 55 社立地、日本一の集積地）」「バックアップ拠点として注目」「国内外への県へのメッセージ（情報通信産業振興の明確なメッセージ→沖縄 IT 津梁パーク（国の支援）等）他が主に考えられることである。それぞれの詳細な取り組みについて、ご説明いただきました。

次に今回のイベントで懇親会や会場の手配にご尽力いただいた島田勝也氏による、「沖縄 IT 津梁パークにつながる琉球王国の歴史」として、津梁という言葉キーワードに沖縄の歴史を紹介、沖縄をもっと知ってもらい、沖縄滞在を楽しくしてもらおうための講座！をしていただきました。

午後からの開催ですので、本日最後のセッションです。「安心ネットづくり促進協議会」の取り組みのお話しです。日本のインターネットリテラシーを全業界、全国民をあげて行っていくために設立された協議会の設立経緯、「憲章宣言」を解説していただきました。「憲章宣言」とは「もっとグッドネット」として安全にインターネットを使える環境をみんなで実現していこうという活動を表す言葉です。みんなでインターネットについて考え、よりよい利用をしていくための活動“1億人のネット宣言「もっとグッドネット」”。三つの目標を掲げて実現をしていくものです。

1. ネットでも思いやりを持って！
2. 社会のルールとマナーを守って！
3. 賢く使ってよりよいコミュニケーションを！

上記の宣言は Web で出来ます。この三つの目標に同意したら、<http://good-net.jp> で参加してください。個人、企業、団体どなたでも参加できます。当協会もこの協議会に参加し、それぞれの作業部会に担当者が会議参加をしており、係わっております。

14:00～2 時間半と少ない時間でしたが、1 日目は終了です。この会場はこの後 18:00～ライ

ブハウスに変わり、賑やかになるのです。私たちはと言うと「コザ」という場所に変えて30分ほど町並みを眺めながら、「島ごはん」という居酒屋で懇親会を行いました。その後2000円を\$に換えてコザのライブハウスにご案内いただきました。ここでは\$なんです。なかなか体験できない場所を見せていただき、島田さんに感謝です。とても勉強になりました。

【10月10日（土）】

さて、二日目です。本日は、9:15～17:00まで丸1日開催です。まずは、冒頭でも書きました通信の秘密の第一弾として「通信の秘密とISPのオペレーション 帯域制御の運用に関する説明」です。今もトラフィック的には多いP2Pですが、ともすればこれらをコントロールするための帯域制御は憲法で保障された表現の自由や通信の秘密に抵触することになります。2008年5月「帯域制御ガイドライン」が策定され、1年経過した。ガイドラインの見直しを検討すると共に、ガイドラインをわかりやすく解説するポイントを策定。今回は2月に行われた事業者への調査結果も合わせて、解説をいただきました。

次に沖縄戦体験の認識を巡って「赤ちゃんを軍人扱いにした「援護法」のトリックとして、沖縄国際大学石原教授にお話しいただきました。

現在、靖国神社合祀取り消し訴訟があり、10月6日に裁判が行われました。原告弁護側が専門家承認を申請している。訴えられている国と靖国神社は、反対しているが裁判官は採用を考えているようだ。その専門家が、石原先生だという。今回は、その件のお話を中心にさせていただいた。あまり知られていない件を話す機会をいただいて良かったと先生がおっしゃっていました。

石原先生は39年間講師をしている。裁判所に提出する一部を資料として配布。これが本日の話のポイントです。B4の資料は1945年沖縄戦の真っ最中に大本営陸軍が出した戦闘マニュアルで、本質が示されている。日本本土でも平和記念資料館へ展示している。極秘のうちに沖縄県民をどういう風に指導、誘導していくかが書かれており、沖縄県民の悲劇が記されている。これは、いったん米軍に押収されて日本に返還された資料（原文）の一部で、とても重要なものだそうです。「昭和20年7月9日、これより軍人軍属を問わず、標準語以外の仕様を禁ず、沖縄語で話すのは、敵とみなし、処分する」と書いてある。極めつけは、現物の資料で、「米軍の撒いた800万枚のチラシをみだりにもっていたら敵とみなし、銃殺する。」との記述もある。こういう事を念頭に置いた上での話をしていただきました。そして、これほど資料があるにも関わらず、沖縄戦の根本的な認識が人によって違うと言うことを常日頃感じている。「現在世の中は思考停止状態に陥っている。」と聞くがそれが浮き彫りになっているのではないか。また、ある講演の中で「政府が人々を誘導するために信じ込ませて常識となった言葉の意味を見直し、正しく定義しなおすことは人々が真実を見直すことがきわめて重要である。」という言葉聞いたとき、まさに沖縄戦でも考えられることだと思ったそうです。これから本論に入る政府の言う集団自決は赤ちゃん

を含めた住人を軍人同様に扱うことによって、沖縄側から要望したことでもあるが、実は日本政府にとって何を意味するかというと、数々の日本軍の犯罪を免罪して、国家の戦争責任を免責にしている軍民一体。そこで、沖縄でも常識になっているが正しく見直し、日本軍が軍事機密の漏洩防止のために住民を指導、誘導、強制、極度の恐怖心をうえつけ、住民に殺し合いの形を取らせた、死に追い込んだ。強制集団死と正しく定義しなおすことが沖縄戦の真実を知ることとなるのではないか。これが一つのテーマである。

(続きは Web で)

午前中最後のセッションは、「情報通信と地域・日本社会、複雑化する通信と我々の未来」として IPv6 や NGN、ドメイン名その他新たな技術とサービスを関連させて、ハイパーネットワーク社会研究所の会津氏にお話しいただいた。

先の沖縄戦に関する先生の講演を受けて、急遽ページを作ったそうだが、日本人の特性から始まり、サイバーセキュリティ、NGN 関係 IPv4 枯渇から IPv6 対応、ドメイン関係のはなしまで、幅広くお話いただいた。

空間は拡大しているが我々のほうがどう拡大が出来るのかが課題になり、現在の「複雑化」の要因は、通信網の IP 化、IPv4 の枯渇と IPv6 への対応、ドメイン名の自由化、インフラの変化（光ファイバーと無線の伸び、クラウド化の進展）上位レイヤーの爆発がいつぱんに起きてしまったことが考えられる。また、インターネットそのものが変化してきている。10 年前と違って、インターネットの依存度が違う。社会的な重要度が増し、止まってしまうと大変なことになってしまう。また多くの人が社会インフラとして使っているため、トラブルも多くなっている。今まで以上にどのようにインターネットをガバナンスするかが課題である。ネットの中立性が重要になっている。

枯渇する IPv4 と対応方法アクセス網の対応、サービス（ASP・E コマース）も対応が遅い。情報家電、ハードだけでなくソフト面も今後の課題。社会的課題は広報が重要。だがどういう責任をもつのか。NGN と ISP の接続問題。そもそも NTT の問題で、作り上げる前に話し合いをしておくべきだったのではと常に思っている。

また、ドメインについては、「.日本」の導入に向けて 9 月 25 日に「日本インターネットドメイン名協議会」を設立。管理運営事業者の選定方法民間の場で選定する。協議会の目的は、1) 「.日本」の管理運営事業者の選定・監督、2) 地理的名称に関連するトップレベルドメインの導入支援、3) ドメイン関連市場の健全な発展への貢献、4) 国際的な協調活動への貢献である。

事業者が儲けるのではなくて、一番大事なのは利用者の利益である。選択の自由、イノベーションの推進、ビジネスの発展、地域社会の活性化を考えることが重要である。

午後からは、今回のメインでもある「個人情報保護の EU 基準と日本」～沖縄の個人情報保護特別区域化の提唱～、そして通信の秘密についてとして、一橋大学名誉教授堀部先生

にお話しをいただいた。

日本では、地方公共団体において個人情報保護のための条例が作られ、国レベルでも作らないと特に EU から日本は個人保護制度が無い。EU 諸国から個人情報は出さないといわれ、海外で活動する一般企業には障害が出ている。一般には認識されていないが、厳密に言えば、策定されていないことは、各国の法律違反になり処罰の対象となる。

EU からのオープンディスカッションの中で、日本の個人情報保護制度のあり方を検討することを言われ、海外で仕事をしている日本企業からもその要望は多かった。地方の条例が作られる時期から携わってきて、国レベルの個人情報保護を策定するまでのプライバシー・個人情報論議の世界的展開の時期区分を含めて、プライバシーマーク制度や関連する内容を詳細に説明いただいた。また、これを踏まえて、今後沖縄という一つの地域で個人情報保護の特区を考えてみてはどうかと提案をした。

(続きは Web で)

本日最後のセッションは、総務省の地域情報化施策（ユビキタスタウン構想）として、総務省情報通信政策課国際戦略企画官の湯本氏にお話しをいただき、その後、長崎県対馬市長 財部（たからべ）氏、東京大学大学院総合文化研究科 助教 清野（せいの）氏、飛び入りでりんけんバンドの照屋林賢氏にもご登壇頂き、司会 立石副会長で、パネルディスカッションを行った。

地域情報化の推進については、地域において課題が深刻化しているもので、地域の再生が必要であると考えている。ということが真っ先にあげられた。ICT が使えるようになって来ることにより、ICT によって地域の再生が出来るのではないかとの期待は大きい。ICT による地域活性化とは、ネットワーク整備の推進、ICT 利活用の促進であり、安全・安心で豊かな地域社会を形成、ネットワークの整備と ICT 利活用促進を一体として推進することによる相乗効果の確保が重要とのこと。

現在の ICT 化は各都道府県の実質県内総生産の成長にはプラスに働いている。ユビキタスタウムの効果は出ていると思われる。日本のブロードバンド基盤は全国でも高水準だが、行政、医療、教育をはじめとする数多くの分野において、ICT の利活用が立ち遅れていることが問題である。2008 年後半以降の金融危機に端を発する世界同時不況から、我が国がいち早く脱却し、また産業構造の変革を通じて国際競争力を有する国へと飛躍するためには、ICT の利活用を積極的に図っていくことが必要であると思っている。現状では、ユビキタスタウン構想推進事業（地域 ICT 利活用推進交付金）がある。地方において、医療、福祉、防犯、雇用など様々な分野で諸課題を抱える中、ICT の集中的な利活用を支援し、地域住民が生活利便の向上、安心・安全を実感できる街づくり（ユビキタスタウン）を早期に実現するために定額の補助金を交付。ICT システムを集中的に導入することにより、複数システムの連携による相乗効果、ICT の持つメリットの地域全体への広まりなどが期待される。平成 21 年度補正予算 195 億円（新規）1 プロジェクトにつき上限 1 億円（5000

万円、3000万円、1500万円)の定額補助がある。

ICT利活用のイメージとして、以下のことが考えられる。

- ・遠隔医療の実施（厚労省と連携）
- ・児童、高齢者の見守り
- ・テレワーク環境の整備（厚労省、国交省、経産省と連携）
- ・地場産業の振興（農水省と連携）
- ・ICTを活用して、地場製品の生産管理・情報公開の効率化を図るとともに、共同調達・

販売システムの構築など販路拡大を支援

- ・生涯学習機会の拡大
- ・ふるさとケータイの促進
- ・センサーを活用した防災対策
- ・ユビキタス空間コード基盤の構築
- ・電子自治体の推進

この後パネルディスカッションに

(続きは Web で)

■ スケジュール

【2009年10月9日(金)】

- 14:00～ 開会挨拶 JAIPA 渡辺会長
- 14:10～ 沖縄県の情報通信政策と IT 津梁パークについて
沖縄県観光商工部 情報産業振興課 課長 米須清光氏
- 14:50～ 沖縄 IT 津梁パークに繋がる琉球王国の歴史
沖縄大学 地域研究所 特別研究員 島田勝也氏
- 15:40～ 安心ネットづくり促進協議会の解説
財団法人 マルチメディア振興センター (FMCC)
安心ネットづくり促進協議会 事務局次長 石原友信氏
- ～16:30 終了

- 18:00～ 交流会 島ごはん (コザ)

【2009年10月10日(土)】

- 9:15～ 通信の秘密と ISP のオペレーション
帯域制御の運用に関する説明及び討議 他
有限会社マンダラネット 代表取締役 立石聡明氏
- 10:00～ 沖縄戦体験の認識を巡って
赤ちゃんを軍人扱いにした「援護法」のトリック
沖縄国際大学教授 石原昌家氏

- 11:30～ 情報通信と地域・日本社会、複雑化する通信と我々の未来
(IPv6、NGN、ドメイン名、その他新たな技術とサービスを睨んで)
ハイパーネットワーク社会研究所 会津 泉氏
- 12:20～ 昼食
- 13:00～ 個人情報保護と通信の秘密について
一橋大学 名誉教授 堀部政男氏
- 14:00～ 上記セッションから引き続き
質疑応答とパネルディスカッション
- 14:30～ 休憩
- 14:45～ 総務省の地域情報化施策
(ユビキタスタウン構想) について
総務省 情報通信政策課 国際戦略企画官 湯本博信氏
- 15:20～ 地域の情報化に関するパネルディスカッション
総務省 情報通信政策課 国際戦略企画官 湯本博信氏
東京大学大学院総合文化研究科 助教 清野聡子氏
長崎県対馬市長 財部能成氏
有限会社マンダラネット 代表取締役 立石聡明氏
- 18:00～ 交流会 ビーチパーティ at サンセットビーチ (北谷)